679
2017年
2月発行

よろこびの泉

わたし（イエス・キリスト）が与える
水を飲む者はだれでも、
決して渇くことがありません。
私が与える水は、その人の
うちで泉となり、永遠の
いのちへの水がわき出ます。

新約聖書　ヨハネ4：14

和歌山　南部梅林

香り

河野　進

まだ寒い春の朝
どこかに梅の木があるらしい
ふくよかな香りが
ただよってくる
わたしの近くを
通りすぎる人々に
キリストの香りを
贈らせてください

河野　進詩集「母よ、幸せにしてあげる」より

発行所　〒630-0266　奈良県生駒市門前町七―四〇　日本ミッション
電話〇七四三（七三）一七五四　振替口座〇〇九三〇―二六六四二番
発行人　ファベイ・D
編集人　日本ミッション編集部
印刷所　〒350-0303　埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
電話〇四九（二九六）〇七二七　新生宣教団印刷部
一年分　送料共　九〇〇円
定価　一部　一八円

質問箱

問　たいして勉強もせず大学を卒業して10年。契約社員やアルバイトを何度も転職。家庭を作るほどの収入もなく今や30代。こんな人生、パッと生まれ変わってやり直したい。その方法を教えてください。

答　漫画キャラクターの衣装や化粧をそっくり真似るコスプレは、平凡な日常生活から一時変身気分が味わえ、若い人に人気があります。

今の自分からもっと素晴らしい生き方の自分に変わりたい願望は誰もが持っています。しかし大事なのは容姿やうわべを変える変身ではなく、だめな自分の全部を捨てて過去と現在を白紙に戻し、新しくやり直すことです。が、そんな虫の良い願いなど、おいそれと起こることはないと諦め、正月に決心した新しい目標が一カ月もたたぬ間に破れ、だめな自分を引きずってはいませんか。

聖書は次のように言っています。「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った。見よ、すべてが新しくなったのである。」（Ⅱコリント5・17）と。あなたの願いを完全にかなえる救いの道を示しているのです。クリスマスの日に、神のみ子イエス・キリストはこの世界に来てくださいました。それは、私たちの全ての罪を許し、再び罪を犯す弱い心を強くし、愛の心を与えて、人々のために全力で生きる具体的な知恵、方法、職場、使命さえも与えて下さるためです。

この聖書の言葉を信じて人生が一変し、素晴らしい働きをした人は日本と世界中に数え切れないほどいるのです。イエス・キリストの十字架と復活を信じ受け入れた人には、世界を変えるほどの逆転ホームランを打ってチームを優勝に導くようなドラマが起こります。

私は若い日に肺結核にかかり、6年間療養所のベッドの上で絶望の日々を過ごしました。その終わりの一年前に聖書に出会い、イエス・キリストを信じて立ち上がりました。28歳で神学校に入り、その後聖書の救いと語る牧師となって五十余年、色々な人の新しい人生へのスタートに関わってきました。あなたも教会に行って生まれ変わりを経験し、新しい人生を手に入れてください。

（児玉　博之）

親と子のしあわせ 388

幼稚園で働いていると、子どもとお母さんの姿に心が優しくなります。朝の登園時に、泣いて「お母さんがいい」と言う子に、お母さんが「帰ってくるのを待ってるからね」と言って抱きしめると、落ち着いて「行ってきます」と言って離れます。そして保育が終わってお母さんと会うと、走って行って「抱っこ」と甘えるのです。この時の親子の姿が好きです。子どもをいっぱい抱きしめてあげてほしいのです。あっという間に大きくなるのですから。

我が家の次女は、三人兄姉の末っ子で中学一年生、卓球部です。まだなかなか勝てないのです。私が帰宅すると、「お母さぁん。また負けたー」と半べそで抱きつきます。「そうね。負けてくやしいね。またがんばって練習しようね」と言って抱きしめます。すると気分が変わったのか、「宿題しよう」と言って離れます。そうかと思えば、「宿題は？」と聞くと、「わかってる」と一寸とイライラしている時もあります。振り子のように、甘えてみたかったり干渉されたくなかったり、心が色々動くようです。時には、二人で老人ホームにいる母の所に行ったりしますが、車の中では色々話してくれます。

長女は高校一年生です。部活は陸上部で、勉強も忙しいです。もう抱きしめることはありませんが、ときどき深夜にドライブをしてお茶を飲んで色々話します。友だちのことや将来の夢のことも話します。一緒にお祈りできることは嬉しいです。

「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。」（Ⅰヨハネ4・19）

親子でもわかってやれない事もあり、なんでもしてあげられるというわけでもありません。怒りすぎることもあります。親も完全ではないので失敗します。それでも、家族はあなたを愛しているよ、守っているよ、応援しているよと伝えたいのです。神さまが家族にして下さったのですから。お子さんに、時には言葉に出して「大好きだよ」と言ってみて下さい。神さまもあなたに「愛している」と言って下さっていますから。

（相原　幸紀美）

＊この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。
これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

Ⅰ面写真：高原幸男

●質問箱への投書（100文字以内）よろこびの泉に関するお問い合わせは Izumi@japanmission.org まで

神が計画された道筋 ～一切を任せて～

和歌山県日高町　幸野　桂子

繁盛していた商売がいつしか経営不振に陥り、店を閉めることになりました。債務整理の夫と長女を残し、私は再起を願い、一足先に旧知の友を頼って九州大分から大阪へ出ました。しかし住まいさえ得られず、困っていた私達親子を友人は快く助けてくれ……、友人は知らないうちにクリスチャンになっていたのです。

▲教会礼拝堂にて　新年のお花と

一九七六年七月、37歳の私が初めて行った教会は、大阪の千里ニュータウンバプテスト教会でした。プレハブの質素な建物でしたが、そこに多くの人が集まって、喜びに満たされて賛美をしておられました、その熱気と歌声は会堂のガラスを震わせるほど反響して、それまで体験したことのない雰囲気に圧倒された一日でした。その日は友達に誘われて渋々出向いたものですから、牧師のメッセージを批判的に聞いていました

そんな私が、次の週の礼拝出席でイエス様を救い主と信じて救われたのです。初めての礼拝出席から1週間の内に人生の大きな岐路に立たされていました。

クリスチャンに支えられ

私達夫婦は九州大分でサバークラブを経営していました。時勢に乗ってスナックなど3軒の店を商っていましたが、8年が過ぎた頃から経営不振に陥り全ての店を閉める羽目になってしまいました。心機一転、やり直すつもりで私は20年来の友（香川純ちゃん）を頼って上阪したものの、3人の子ども（15歳、10歳、8歳）を連れての先行きは不安が募るばかりでした。

債務整理のために、夫と高校の寮生活をしていた長女を残して「何とかしなければ」と一足先に家を出た私ですが、問題を抱えた家族には借家どころかアパートさえ貸して貰えず、厳しい現実に焦りの日々を過ごしていました。純ちゃんの家庭はいつの間にかクリスチャンホームになっていて、世間の風当たりとは反対にこの家族は私達を受け入れ、キリストの愛を示してくれたのです。けれども私は世話になりながら「外国の神さんは嫌や」と頑なに拒んでいました。内心では自分の限界を感じながらも素直になれずにいたのです。その内夫とも連絡が取れなくなってしまうし。何も言わず、米びつの底をさらいながら私達を養ってくれている純ちゃん一家……これって何だろう、と理解しがたいものでした。

あふれ出た涙

そんな七月の暑い日でした。汗をぬぐいながら何軒かの不動産屋さんをまわったものの、いつものように子どもの数で断られた帰り道、急に息子が立ち止まって「大阪のおっちゃんはいじわるやねえ、宏ちゃん狭くても辛抱するのに。お母さんもたいへんやねえ」と声をかけてきました。びっくりしました。小学二年生の子どもがそんな心配をしていたのかと。「そうやねえ。大阪のおっちゃんは意地悪やねえ」と答えた途端に大粒の涙が流れてきて、それからはもう堰を切ったようにその場で泣き崩れてしまいました。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。」（マタイ11・28）先週牧師が語った聖書の言葉です。不思議なことに、あれほど批判的に聞いていたメッセージが乾いた

私の心に届いていました。

牧師に言われるまでもなく、大ざっぱな生き方をしてきた自分の罪はよく分かっていたので、そのすべてが赦されて天国に行けるというなら、救われたいとの思いが急激に湧き上がってきました。次の週を待つようにして教会に行き、牧師にその思いを告げイエス・キリストの救いを受け入れ信じたのです。

満足を知る

救われた私は世界が一変した気分でした。その後、借家が与えられ、程なく夫と長女も大阪に揃い家族は一つに集められました。夫は私の信仰に反対はしないものの「俺を引きずり込むな」と念押しをして、日曜日はいつも別行動。私は仕事と家庭と教会生活に励んでいたのですが、心の中では常にお金の計算ばかりしていて愚痴の多いクリスチャンでした。

ある日の礼拝、まるでそんな私の心を見透かしたように「金銭を愛することをしないで、自分の持っているもので満足しなさい。主は、『わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない』と言われた。」（ヘブル13・5）という御言葉が語られました。聖書が示す神様は目には見えないけれど、私の心の全てを見透かしておられると思ったら畏れを感じつつ「私は決してあなたを離れず、あなたを捨てない。」と言われるこの方に従いたいと思い、一九七九年二月、バプテスマ（洗礼）を受けました。

その頃、夫が申し込んだ団地への入居が決まり、大阪から堺の泉北ニュータウンに引っ越しました。教会も近くの泉北ニュータウンバプテスト教会に転会して、そこで子どもたちもバプテスマの恵みに預かりましたが、私にとってはその頃が霊肉共に試練と訓練の時だったように思います。いつ終わるか先の見えない借金の返済が始まり、恐れが出る度に「わたしは貧しく、かつ乏しい。しかし主はわたしをかえりみられます。あなたはわが助け、わが救主です。」（詩40・17）この御言葉を握りしめ、夫と助け合いながら二十年後、やっと完済することが出来ましたが、そこには同心の友、藤本ファミリーの愛の犠牲があったことが忘れられません。私たちが困窮したとき、いつもこのファミリーによって必要が備えられました。それはまるでエリヤがカラスに養われたような神様の計らいでした。

家族の救い

その期間にも神様は、思いがけない祝福を準備しておられました。大分の両親がイエス様に救われるよう願って本誌よろこびの泉を送り続けていたところ、二年が過ぎた頃に妹が、その一年後に今度は母がイエス様に救われました。

大分聖書バプテスト教会の先生ご夫妻がたびたび訪問してくださり、母の信仰を導いてくださっていました。その後母と妹は天に召され、残された父は別府のキリスト教系のホームに導かれて晩年そこで救われました。大阪から見て大分は遠いと思っていましたが、神様の救いには距離など問題ではないということも教えられました。

借金の返済が済んで目標を失いかけていた頃、神様は長女夫婦を通して和歌山に土地を与えてくださいました。「その地は、あなたの神、主が顧みられる所で、年の始めから年の終わりまで、あなたの神、主の目が常にその上にある。」（申命11・12）神様が年中目を留めておられる地なら、私達にとって最良の場所だと確信して泉北から和歌山へ引っ越しました。

和歌山は温暖な風光明媚な地で、日高恵みバプテスト教会の先生ご夫妻も私達を温かく迎えてくださいました。返済を終えたばかりで蓄えのない私達でしたが、「主はあなたのために、あなたの穀物倉とあなたのすべての手のわざを祝福してくださることを定めておられる。あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地で、あなたを祝福される。」（申命28・8）　この御言葉を信じ、新しい土地の開墾から始めました。来る日も来る日も作業に追われて月日を重ね、その間神様の約束通り全ての必要が満たされ、十年後、手作りの家が完成しました。完成後、恵みに感謝して家庭集会を開くと、地域の人たちが集まってこられ交流が始まりました。また、37年前「俺を引き込むな」と言った夫も今では時折教会の働きに参加します。

一九四一年生まれの私は75歳になりました。泉北在住の頃ベーチェット病を患い、長い間苦しみましたが、「この病気は原因不明で治療法がない。」と見放されてからは、祈りながら上手に付き合う術を学び、生かされていることを感謝していたら、8年後和歌山に来てから癒やされました。脳梗塞でも倒れ、左半身に麻痺が残りましたが教会の方達の篤い祈りに支えられて癒やされました。他にも問題は多々あります。しかしこれまで私達を助けてくださった主は、必ず又全てのことに勝利させてくださると信じています。